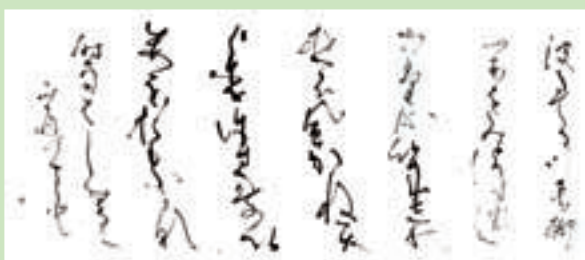


# わたしの作品



【書道】市展賞 波たてる



【鳥取市卯垣】  
さいとうのぶこ 齊藤伸子さん

慌<sup>あわ</sup>ただしい日常生活の中で、書に向かいピンと張り詰め集中できる時間は、私にとっても貴重で大切なひとときです。  
「一枚の紙面の中に景色ができるように」という先生の教えを心がけながら書き上げました。  
墨の移ろいが、自分なりにうまく表現できたと思います。



【鳥取市上町】  
ひがしとしろう 東本史郎さん



【洋画】遠藤董先生顕彰会長賞  
ニシオ・トミジ氏への書簡<sup>しよかん</sup>

「楽しくなければ面白くない」をモットーに、何かをイメージしながらではなく、頭に浮かんだものをキャンバスにぶつける「表現のストレス発散」という気持ちで絵を描いています。  
この絵は、もとは一日で描き上げましたが、その後三回位塗り重ねをしてできたものです。  
絵を通して、情報を得たり、人との出会いが生まれたり、絵とは不思議なものです。そこが絵の魅力だと思います。

市民図書館の  
司書が調べます

## まちで見つけた「なんでだろう?」

市役所の玄関前に「洪水

浸入線」  
と書かれ  
た金属づ  
しーとが  
あるの、  
なんでだ  
ろう?



からも、いかに大きな災害であつたかが想像できます。

プレートは鳥取市役所のほか、鳥取商工会館の玄関前と山陰合同銀行鳥取営業部の玄関横（「本通り」バス停前）にも設けられています。

市役所前のプレートには「7 m 22 cm」と数値が刻まれています。商工会館前のものは「7 m 20 cm」、山陰合同銀行前のものは「8 m 03 cm」と数値が微妙に異なっています。

国土交通省鳥取河川国道事務所河川管理課で伺ったところ、数値は浸入した洪水の水位を表示したもので、「東京湾中等潮位上」とプレートにも記されているように、



鳥取市役所本庁舎前のプレート



山陰合同銀行前のプレート



鳥取商工会館前のプレート

東京湾の平均海面を基準（標高0 m）として測られた高さであるとのこと。ちなみに、新千代橋下流の、行徳地点の堤防高を同じ表示で表わすと約8 m 90 cmになります。  
災害の怖さを記憶にとどめ、先人たちの苦闘の歴史を心に刻んでおくためにも、こうした「伝承プレート」が設置されるのは意義深いことですね。

まちで見つけた「なんでだろう?」のコーナーは、今回で終了します。ご愛読ありがとうございました。

【執筆担当】鳥取市民図書館  
企画員／西尾肇<sup>にしおはじめ</sup>